

記入日：令和2年7月31日

所在地（都道府県/市町村）：大阪府枚方市		
法人名：社会福祉法人わらしべ会		
施設・事業所名：セルフわらしべ		担当者名：石田哲也
事業種類：就労継続支援B型事業		
主たる障害：知的障害		令和2年3月末現在 定員：21人
TEL:072-858-1425	FAX:072-858-9398	E-mail:selp-warashibe@diamond.broba.cc

① 令和元年度までの主な取り組み内容

下請け作業（箱組立・ペットエサ袋詰め等）・馬作業
 清掃作業（法人内障害者支援施設2ヶ所）・高校敷地内清掃及び除草作業等
 公園清掃・薬局での処方箋裁断作業・市内公共施設等敷地内の除草及び剪定作業

② 施設・事業所における新型コロナウイルスの影響

- ・感染防止対策として、障害者支援施設での清掃作業が中止となる。（4月中旬～6月末、今現在感染者急増を受けて8月1カ月も中止の予定）
- ・下請け作業（箱組立）の受注量が減少。
- ・企業敷地内の花壇整備作業が企業の業績悪化で5月末で終了。
- ・市教育委員会から受注していた小学校対象の馬プログラムが8月末に延期。（例年は6月頃から開始。）

③ コロナ下において新たに始められた取り組みの内容

**事例タイトル：下請け作業の営業、共同受注、除草作業の受注増
生産力向上を図る為の作業場の模様替え**

取り組み内容：

- ①事業所として、箱組立の下請け作業の減少を受けてチラシ等を見て営業
- ②新たに始めたのではないが、市内ネットワークを通じて、共同受注ワーキングチームとして府営団地の除草作業受託
- ③市内ネットワークを通じて、企業からの下請け作業の話がある→受注ならず
- ④市内ネットワークを通じて、企業からの仕事の話があり、就業・生活支援センター、共同販売WT、共同受注WTの各代表3名で企業訪問する
- ⑤法人本部の用務員等の退職等に伴い、法人本部等の敷地内の除草作業を受託する
- ⑥温室で行っている小動物のエサの袋詰め作業の生産力向上を図る為、作業場の模様替えを行う（ライン生産を行える環境整備）

④ ③の取り組みを始めたきっかけ・工夫した点

- ・①については日常的な活動のひとつで、特に工夫はなし。きっかけはコロナ禍での下請け作業受注減少
- ・②～④については、平成29年度から、自立支援協議会の就労支援部会の下、就労移行・共同販売・共同受注の3ワーキングチームを立ち上げ、ネットワークとして地道に活動してきた結果（今現在②は受注予定。④は今後の展開次第。）
- ・⑤については、法人本部の用務員の高齢化・退職に伴うもので、新たな用務員を雇用するよりも、除草作業を行っている当事業所に仕事として発注した方が良いだろうということになった
- ・⑥については、8月より障害者支援施設での清掃作業が中止になった為、事業所に残る利用者が増えたので、ソーシャルディスタンスを保って作業をする環境整備と併せて、生産力向上を図る為に、ライン生産を行える環境整備を行う

⑤ 取り組みの効果（売上や顧客、利用者、職員、地域等における効果）

- ・①については取り組み始めたばかりだが、単価が良いので少しは売上UPに繋がるのではと期待。
- ・②については、共同受注WTの参加事業所で売上が減ったところなどが助かるといった声がある。
- ・④は今後の展開次第で未定。

⑥ ③の取り組みを開始するにあたり新たに導入した生産設備・備品（経費・財源）等

- ・特になし。

⑦ 今後の課題・展望

- ・障害者支援施設での清掃作業の中止が長引けば、大幅な売上減となるので、8月以降は事業所の他作業に人員を振り分け、他作業の生産力向上を図る。障害者支援施設での清掃作業再開の目途が立たない場合は、新たな作業又は新たな清掃現場先の確保を考えなければいけない。
- ・展望としては、コロナ禍を前向きに捉え、下半期や次年度に向けて、事業再編の好機と考え、現行事業の整理を図り、新規事業や既存の事業の拡大を図る。

▼除草作業の様子



▼新たな下請け作業を行っているもの



▼小動物のエサを加工する作業場の模様替え後

